

## 小学生ヤングケアラー 15人に1人 「いつでも頼れる人がほしい」との思いに

4月、厚生労働省の実態調査で、大人に代わって家族の世話や家事に追われるヤングケアラーが、小学6年生で15人に1人いる実態が明らかになりました。

### 家庭の事情

介護など身体的なケアだけでなく、料理や洗濯などの家事、幼いきょうだいの世話などをしていると答えた小学生の半数以上が、ほぼ毎日の頻度で、なかには1日に7時間以上世話をすると回答は7%を超えました。

誰かに相談したことがないとの回答は7割を超え、相談先が分からなかったり、親に気を遣って声を挙げられない子どもの孤立を防ぐことが指摘されています。

また、遅刻や早退が多いなど、学校生活や健康に影響している傾向もあることから「家庭の事情」では済まされない実態が見えてきました。

### 実態調査の自由記載欄から

「家の事情で勉強ができないのに、やってこなかったと扱ってほしくない」、「いつでも頼っていい人がほしい」、「いたずらする弟や妹を止めるために、勉強時間が減ってしまい、夜遅くまで勉強をしてしまう。勉強を教えてほしい」

自由記載欄には子どもが抱える思いが溢れていました。

子どものサインに気づくため、私たち大人が見守り続け、声をかけ続ける。それが支援のきっかけになるはずです。

「助けてほしい」

「逃げ道を作ってほしい」